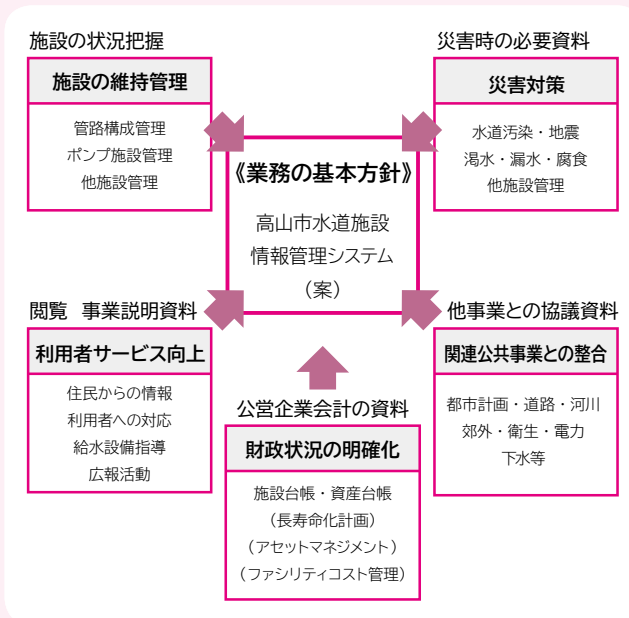


基盤整備 委員会

調査項目

水道管の耐震化について
ごみ処理施設の建設について

～ 中間報告 ～



◆水道管の早期耐震化と地理情報システムの導入について

高山市の水道は、昭和27年の給水開始以来、安心の水を供給してきましたが、取水・浄水・送水・配水各施設の老朽化が進み、更新・耐震化が喫緊の課題となっています。

市は全424の水道施設について耐震性・老朽度の調査を行い、平成22年度策定の「高山市水道ビジョン」に基づいて課題解決に取り組んでいるものの、進捗状況は芳しくありません。

水道事業の健全な運営のために、日本一広い地域に点在する49の水道事業を平成26年度までに統合する計画も策定されていますが、地震などの災害時に市民の生命や生活のために水の確保は欠かせません。そのため、基幹施設・管路の耐震化による安全性の確保、病院など重要施設への給水システムの構築が求められています。

そこで、基盤整備委員会「水道の早期耐震化と地理情報システムの構築」について提言への取り組みを行っています。

施設の維持管理業務が高度化・複雑化している中で、まだ水道施設情報が紙ベースであり、今後の適正な状況把握・維持管理のためには、まず「地理情報システム(GIS)」の早急な構築が必要と考えています。これにより、管理データの一元的・体系的な管理と管路の均質化につながり、業務の効率化や高度化、窓口業務の迅速化などが図られます。また災害・濁水時の対応や工事に伴う水質管理、あわせて耐震化率・経年化率など既存管路の状況把握が容易となり、今後の整備計画立案における基礎解析にも対応できます。



耐震管の布設替え工事(さいたま市)

◆ごみ処理施設の建設について

高山市は平成23年3月に、ごみ及び資源ごみの減量及び処理について前計画を見直し、長期的・総合的な視点から、市の廃棄物政策に係る基本方針を定め「高山市ごみ処理基本計画」を策定しました。

計画では、既存のごみ処理施設の統廃合と、今後の施設整備の方向性が示されています。三福寺町にある資源リサイクルセンターは、昭和61年の開設で25年が経過しており、これまで基幹改良等により延命化が図られてきた必要が高まってきました。

ごみ処理基本計画では、平成31年度以降の稼働を目指すこと、用地の選定は平成25年前期までと予定されていることから、早期の取り組みが求められています。

ごみ処理施設の建設については用地問題が大きな課題であり、他市においては住民の合意が得られず、計画が進まない事例もみられます。

用地選定は地域住民の理解が大前提であることから、慎重かつ計画的な取り組みが求められます。選定の方法や施設の設計段階における市民参加のあり方、新ごみ処理施設の処理方式、余熱利用など高山市にふさわしい施設のあり方について、他市の状況等を参考に調査研究を進めているところです。

そこで、基盤整備委員会「水道の早期耐震化と地理情報システムの構築」について提言への取り組みを行っています。

施設の維持管理業務が高度化・複雑化している中で、まだ水道施設情報が紙ベースであり、今後の適正な状況把握・維持管理のためには、まず「地理情報システム(GIS)」の早急な構築が必要と考えています。これにより、管理データの一元的・体系的な管理と管路の均質化につながり、業務の効率化や高度化、窓口業務の迅速化などが図られます。また災害・濁水時の対応や工事に伴う水質管理、あわせて耐震化率・経年化率など既存管路の状況把握が容易となり、今後の整備計画立案における基礎解析にも対応できます。



三福寺町の資源リサイクルセンター